



発行日：令和2年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第44回海部会WGを開催しました！

9月15日（火）に第44回海部会WGを、新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催しました。今回は佐久島をテーマに、矢作川流域圏懇談会と佐久島、佐久島に生息する鳥類、佐久島での取り組みについて、話し合いを行いました。

日時：令和2年9月15日（火） 14:00～16:10
場所：西尾市役所会議棟 第4会議室
参加人数：22名（内オンライン参加1名） ※事務局を含む



◆主な活動内容

1 佐久島における取り組みについて



■矢作川流域圏懇談会と佐久島

愛知・川の会 近藤朗氏より、説明をいただきました。主な内容は、以下の通りです。

- ・三河湾最大の島で、面積は1.8km²。人口は少なく234人（2015年時点）。1996年から弁天海港佐久島プロジェクト、2001年から三河・佐久島アートプロジェクト21がスタートし、アートを使った活性化が進められている。
- ・2013年の第10回海部会WGを佐久島で実施し、漂着ごみについて現地視察を行った。
- ・山村再生担い手づくり事例集について、2014年に「もんぺまるけ」、2015年に「島を美しくする会」を取材した。
- ・流域圏担い手づくり事例集について、2018年に「流域圏担い手づくり事例集交流会2018」を佐久島で実施し、その後「有限会社 オフィス・マッチング・モウル」の取材を行った。
- ・2019年には、新しい佐久島の資源を探索するため、探鳥会を実施した。また、矢作川流域の海と山のコラボを考えるため、根羽村森林組合を訪問した。12月には、奈佐の浜プロジェクトの学生らによる佐久島合宿を行った。

■佐久島に生息する鳥類

西三河野鳥の会 高橋伸夫氏より、説明をいただきました。主な内容は、以下の通りです。

- ・1980年代あたりから、107種の鳥類が観察されている。
- ・チドリ類の数が多い。その中でも、ダイゼンは、愛知県の中で佐久島が最も数が多い。
- ・ミヤコドリは、佐久島を代表する昔から生息する鳥。
- ・ハマシギが群れて見られる。生息数の推移をみると、一色干潟では減少しているが、佐久島はあまり減っていない。
- ・ウグイスの数も多い。人口が減って、畑がなくなり、ササが増えた後、2000年あたりからウグイスが増えてきた。2015年の調査では、愛知県22カ所の中で佐久島が最も多い。
- ・佐久島はあまり環境が変わっていないので、昔ながらの鳥がまだ見られる。

■佐久島における取り組み

有限会社オフィス・マッチング・モウル 内藤美和氏より、説明をいただきました。主な内容は、以下の通りです。

- ・佐久島のアートプロジェクトでは、アート作品を設置して交流人口を増やしていくことや、島の文化財・伝統文化を守ることを柱に取り組んでいる。アート、歴史・文化、自然という形で、島を訪れる人の興味に応じた選択肢を増やしていきたい。
- ・野鳥、海の生き物、地質などの自然を体験するプログラムを考えていきたい。最終的には、佐久島の自然観察ガイドブックを作りたいと思っている。
- ・今後は、アート作品、文化財、自然を3つの柱として、佐久島について考えるプログラムを作っていくことで、佐久島のプロジェクトを充実させていきたい。

2 10年誌「矢作川流域年表を読み解く」及び「座談会」の報告



愛知・川の会 近藤朗氏より、10年誌の編集状況及び座談会について、報告をいただきました。10年誌編集委員会では、矢作川流域圏年表を読み解くための資料として、矢作ダムができた1970年から概ね20年の単位で、その変遷をまとめた資料を作成しています。また、7月22日に実施された座談会では、「未来へ繋げていくためのプロセス」について、話し合いました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●佐久島における取り組みについて

■矢作川流域圏懇談会と佐久島

- ・ごみ問題を扱う全国のネットワークの中で、ごみ問題にかかわるツール「ごみビンゴ」の開発をやっている。(近藤)
 - ▶ 西尾市佐久島振興課でも、海岸漂着ごみをテーマとして「ごみビンゴ」の企画を進めている。(三矢)
 - ▶ 愛知県環境局資源循環推進課が漂着ごみの問題をやっている。一緒に取り組むのもよい。(青木)
- ・佐久島の最盛期の人口は何人くらいか？(青木)
 - ▶ 最盛期の人口は、1947年で1634人。2015年時点で234人。(近藤)
 - ▶ 私の地元でも耕作放棄地や空き家がみられており、これらの対策は重要である。(青木)

■佐久島に生息する鳥類

- ・伊勢湾のいろいろなところで鳥が減っている。アサリの減少と鳥の減少の流れが、ほぼ同じように感じる。その中で佐久島では、昔からの鳥が残っているというのは、すごいと思う。(近藤)
 - ▶ 環境や景色が昔と変わらないのに鳥類が減っている。減っているのは水鳥の仲間。原因は栄養だと思う。市民部会で話し合われている、マイクロプラスチックやネオニコチノイドも関係があるかもしれない。2017年頃からキアシシギなどが、春と秋の渡り期に見られなくなったのも餌の減少に関係しているのかもしれない。(高橋)
- ・世界的に見たらどうなのか。日本だけ減っているのか。(青木)
 - ▶ 渡り鳥の多くは減少傾向にあるが、九州など大都会が近くにないところでは、それほどひどい減少はない。埋め立てが進んでいる中国などでは、減っている。伊勢湾・三河湾は、目に見えて減っているかもしれない。(高橋)
 - ▶ ウミガメも最近減ってきている。その原因が、餌の減少ではないかと言われている。(青木)

■佐久島における取り組み

- ・林野庁が、1985年から1990年頃に森林環境整備事業を実施し、愛知県では佐久島が対象となっていた。(井上)
 - ▶ 佐久島の北側の森林を整備した計画で、現在、散策できるようになっている。(三矢)
- ・人間が手を加えることで成立しているのが、日本の自然だと思う。人間がうまく利用し続けることが重要。(高橋)
 - ▶ 手の加え方は考える必要がある。たとえば、護岸を作ると浸食がすすむ場合がある。こういう手の入れ方はよくない。三河湾は埋め立てされたところが多く、自然の浜が少ない。これが三河湾を悪くした一番の原因だと思う。ただ、佐久島は岩場なので浸食が少ないため、護岸はあまり整備されないと思う。(東幡豆漁協 石川)
- ・日間賀島も佐久島も、漁師の島から、観光の島に変わりつつあるが、佐久島はまだ漁師の島であるように思う。観光客は、島の住民と交流して、一緒に行動してほしいと思う。(東幡豆漁協 石川)
 - ▶ 子どもたちは島にいない。漁師の子どもも島に残らない。地域を支えるには、最低限必要な人数がいる。漁師は漁師、役所は役所、それぞれの立場で考えないといけない。一方で、観光業の人は比較的残ってくれる。観光業の人に頼ってもらうためにも、交流人口を増やす必要がある。(内藤)
 - ▶ 人口減少が止まらないということが何を意味するのかを考えて、島の人とも相談しながら、島の人に関わってもらえるような事業を考えていく必要がある。(東幡豆漁協 石川)

●10年誌「矢作川流域年表を読み解く」及び「座談会」の報告

- ・10年誌の目的は、懇談会が今後どうしていくのかを考えるためのものとしてやっている。(近藤)
- ・懇談会を実施してきた間、最も変化があったのは海だと思う。そういった視点も含め、次の10年は流域圏全体がどうあるべきかを考えたい。流域圏全体で、きれいさだけでなく、豊かさにも着目していく必要がある。(近藤)

●今後の予定について

- ・各部会の10年を整理しているが、当初の海部会は、ごみ問題などを取り上げ、いろんな現場に行っている。(近藤)
 - ▶ 今回は佐久島をテーマに話し合った。次回WGは佐久島で実施してはどうか。海部会であることから、海を見るポイントや鳥の話などをテーマにするのがよい。(青木)
- ・一色の渡船場から佐久島に行くときに見えるだろう、ノリの養殖の状況が気になる。(金田)
 - ▶ 10月27日であると、例年ノリの網が海に出ている。ポール設置はすでに取り掛かっている。(吉田漁協 石川)

●その他意見等

- ・西尾市より、「アサリ資源回復のための栄養塩濃度確保について」という意見が、県に出されている。(金田)
- ・西三河地区の環境基準の類型指定を見直す必要がある。今まで基準値を満たしていなかったからアサリが採れていたが、基準値を満たし始めた途端に、アサリが採れなくなってきた。(鈴木)
- ・時代は変わって、栄養塩や干潟などが問題となっている。従来の矢水協方式に何かをプラスしないとまずいのではないかと思う。(鈴木)
- ・アサリの餌はケイ藻が最適とされる。ケイ藻が優占できる処理水の放流について、検討するべきと考える。(井上)

今後の予定

■第45回海部会WG

日時：令和2年10月27日(火) 11:00~18:00 場所：西尾市佐久島

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。

